



2025年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2025年2月14日

上場会社名 株式会社 ピエトロ

上場取引所 東

コード番号 2818 URL <https://www.pietro.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 泰行

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営企画室長 (氏名) 池田 章朗

TEL 092-724-4927

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第3四半期の連結業績(2024年4月1日～2024年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	8,468	11.3	210	0.8	207	7.6	116	14.5
2024年3月期第3四半期	7,606	9.8	209		192		101	

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 103百万円 (13.8%) 2024年3月期第3四半期 119百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	16.86	
2024年3月期第3四半期	16.54	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年3月期第3四半期	10,658	6,404	60.1	927.32
2024年3月期	10,583	6,429	60.8	933.71

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 6,404百万円 2024年3月期 6,429百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期		0.00		24.00	24.00
2025年3月期		0.00			
2025年3月期(予想)				24.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,000	8.9	230	5.3	215	6.5	99	9.8	14.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期3Q	7,062,230 株	2024年3月期	7,062,230 株
期末自己株式数	2025年3月期3Q	155,618 株	2024年3月期	176,195 株
期中平均株式数 (四半期累計)	2025年3月期3Q	6,896,324 株	2024年3月期3Q	6,140,804 株

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2024年4月1日から2024年12月31日)におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善、インバウンド需要の増加等により、緩やかな回復基調で推移する一方、不安定な国際情勢や、為替変動の影響、物価の上昇等、先行き不透明な状況が続いています。

食品業界では原材料費の高騰等に伴う様々な商品の値上げ拡大による影響が大きく、消費者の節約志向が高まる一方で、外食業界におきましては、人流の活発化による需要の回復は見られますが、原材料やエネルギー価格の上昇、労働力不足による人件費上昇等、依然として経営環境は厳しいものとなっています。

このような状況のもと、当社グループは、「ファンを大切にする」という理念のもと、ファンベース経営のさらなる強化、商品事業、店舗事業を併せ持つ強みを最大限に追求したマーケティングの強化を行いました。

売上面では、商品事業は、商品カテゴリー別の施策強化に加え、商品育成、ブランド力の向上に取り組みました。また、店舗事業は、顧客満足を追求した施策や新規出店効果等もあり、当第3四半期連結累計期間の売上高は、グループ全体で84億68百万円(前年同四半期比11.3%増)となりました。

一方、利益面では、店舗事業は、既存店、新店ともに売上が好調に推移したことと、原価率改善や効率的な店舗運営等により増益となりましたが、商品事業では、主力ドレッシングが野菜価格高騰等の影響を受け販売本数が前年同四半期をわずかに下回ったことに加え、カテゴリー別売上構成変動による粗利率の低下、販管費ではマーケティング強化による費用の増加等により減益となりました。

また全社的な人財投資による人件費の増加や、前期12月に実施した増資に伴う株式関連費用の増加もあり、営業利益は2億10百万円(前年同四半期比0.8%増)、経常利益は2億7百万円(前年同四半期比7.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億16百万円(前年同四半期比14.5%増)となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりです。

①商品事業

・ドレッシングカテゴリー

収益基盤のドレッシングカテゴリーでは、ユーザーが感じているサラダの課題を解決する『マジカルサラダ』企画でサラダの可能性を広げるレシピ紹介活動やキャンペーン等を通し、「ピエトロドレッシング和風しょうゆ」をはじめとする280mlシリーズのマーケティング強化を行いました。カロリー60%カットの「ピエトロドレッシング グリーン 和風しょうゆ」をはじめ、白ワインビネガーを使用した贅沢な味わいの「ピエトロドレッシングプレミアムフレンチ」、春夏限定の「ピエトロドレッシング うめ」、秋冬限定「ピエトロドレッシング和風しょうが」が好調に推移した他、トッピング商品のフライドオニオン「PATFUTTE(パットフutte)」シリーズは、引き続き、レストランのテーブルで自由にお試しいただける“テーブルマーケティング”を強化するとともに、お試し小袋付きドレッシング企画等で認知拡大を図った結果、順調に売上を伸ばしました。

しかしながら、野菜価格高騰の影響に加え、節約志向の高まりもあり、主力ドレッシングの販売数量が減少した結果、ドレッシングカテゴリー全体では前年同四半期を下回る販売額となりました。

・パスタカテゴリー

第2の柱であるパスタカテゴリーでは、ボトル入りパスタソース「おうちパスタシリーズ」の配荷拡大を目指すとともに、新シリーズ「ピエトロ あえるだけパスタソース」の投入による新規需要の開拓を行いました。混ぜるだけで“手作り”を叶える「おうちパスタシリーズ」では、世界中で愛されるキャラクター「ムーミン」との初コラボレーションとして、オリジナルグッズがもらえる「ムーミン×おうちパスタ」コラボキャンペーンを期間限定で実施し、認知拡大を図ってまいりました。

また、レストランの味をご家庭で手軽にお楽しみいただけるレトルトパスタソース「洋麺屋ピエトロ」では、既存配荷店舗での好調を受け、新規店舗への配荷拡大等もあり、「お肉好きのあなたのためのボロネーゼ」「なすとひき肉の辛味スパゲティ」「蟹と蟹みそのスパゲティ」が好調に推移いたしました。

イタリアのパスタブランド「AGNESI」は“ピエトロレストランで使用するプレミアムパスタ麺”として業務用、家庭用のパスタを販売するとともに、「AGNESI」の麺を使用した冷凍パスタが好調に推移いたしました。また、AGNESI200周年を記念した限定セットの販売を行う等、さらなる認知度向上を図ってまいりました。

その他、育成商品である特製ガーリックオイルは、大手量販店での取り扱い拡大に加え、手軽にお試しできる少量サイズを発売したこと等により認知度が向上し、大きく売上を伸ばしました。

以上の結果、パスタカテゴリー全体では前年同四半期の販売額を大幅に上回りました。

・冷凍食品カテゴリー

成長事業である冷凍食品カテゴリーでは、配荷店舗の拡大を目指すとともに、EC市場での認知拡大を図ってまいりました。特に、レストランオリティのアルデンテ食感を実現したプレミアム冷凍パスタを中心に拡販強化を行い、2024年春の新商品として当社レストランの人気メニューを商品化した「〔冷凍パスタ〕洋麺屋ピエトロ 絶望スパゲティ」が好調に推移した他、「〔冷凍パスタ〕洋麺屋ピエトロ お肉好きのあなたのためのボロネーゼ」、「〔冷凍パスタ〕洋麺屋ピエトロ 糸引きモッツァレラチーズのトマトソース」等の定番商品も売上を伸ばしました。また、冷凍食品専門店の拡大に伴い販売数が増加した結果、冷凍食品カテゴリー全体では前年同四半期の販売額を大幅に上回りました。

・スープカテゴリー

素材や調理法にこだわった「PIETRO A DAY」ブランドとして育成中のスープカテゴリーは、自社EC、大手ECモールをはじめ、店舗事業セグメントにおける直販店、レストラン店頭の商品として、販売を順調に伸ばしました。シーズンイベントやブライダル関連でのギフト需要が大きく伸びたこと等により、スープカテゴリー全体では前年同四半期の販売額を大きく上回りました。

利益面では、海外子会社の収益改善はあったものの、主力ドレッシングの販売数量の減少や育成カテゴリーを強化したことによる売上構成比の変化に伴う粗利率の低下、マーケティング強化費用の増加等がありました。

この結果、セグメント売上高は51億50百万円（前年同四半期比10.6%増）、セグメント利益は12億53百万円（前年同四半期比3.4%減）の増収減益となりました。

②店舗事業

・レストラン店舗

レストラン店舗では、「魅力あふれるお店作り」を目指すとともに、さらなるお客様満足度向上に向け、引き続きスタッフ研修の強化等、人財育成に注力してまいりました。メニュー施策として3月に行ったグランドメニューの改定では、ドレッシングメーカーの強みを生かし、“おいしさと見た目の楽しさ”にこだわったサラダメニューの充実を図った他、パスタやドリンクメニュー等も拡充しました。また10月より「カルボナーラフェア」を実施し、秋季限定メニューとして「4種のきのこ 4種のチーズの“幸せ”カルボナーラ」、「カニボナーラ」を提供するとともに、九州産地魚を使用したディナー限定メニューや、数名で料理のお取り分けができる「シェアセット」の導入等、ディナーメニューの強化を行いました。これらの施策の結果、顧客単価、来客数ともに前年同四半期を上回り、既存店、新店ともに好調に売上を伸ばしました。

PIETRO A DAY ブランドのスープを中心とした直販店舗では、商品のおいしさやこだわりをお客様に直接伝えるため、スープの試飲を積極的に行い、認知拡大に注力いたしました。

利益面におきましては、レストラン店舗の既存店、新店ともに売上が好調に推移したことと、原材料や諸費用の価格上昇に対応するため、グランドメニューや一部ランチの価格改定を行ったことによる原価率の改善、セルフオーダーシステムの導入等による店舗運営の効率化に加え、国内外の不採算店を前期に閉店した改善効果がありました。

この結果、セグメント売上高は31億94百万円（前年同四半期比13.1%増）、セグメント利益は90百万円（前年同四半期比174.9%増）と増収増益となりました。

店舗の新規出店につきましては以下のとおりです。

出店時期	店 舗 名
2024年 6 月	ピエトロ 横浜ワールドポーターズ店
2024年 9 月	ピエトロ アミュプラザ長崎店

③その他（本社ビルの賃貸等）事業

その他（本社ビルの賃貸等）事業におきましては、売上高は1億24百万円（前年同四半期比0.2%減）セグメント利益は47百万円（前年同四半期比11.5%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ75百万円増加し、106億58百万円となりました。これは主に有形固定資産が10億93百万円、売掛金が2億67百万円増加する一方、現金及び預金が13億9百万円減少したこと等によるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べ99百万円増加し、42億53百万円となりました。これは買掛金が1億62百万円、その他の流動負債が68百万円、リース債務が56百万円それぞれ増加する一方、未払法人税等が1億1百万円、長期借入金(1年内含む)が90百万円減少したこと等によるものであります。

純資産合計は前連結会計年度末に比べ24百万円減少し、64億4百万円となりました。これは譲渡制限付株式報酬制度に伴う自己株式の処分35百万円、為替換算調整勘定の減少13百万円、前期決算の剰余金の配当1億65百万円があった一方、親会社株主に帰属する四半期純利益1億16百万円の計上によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の連結業績予想につきましては、2024年11月13日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

なお、上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,476,475	1,166,985
預け金	91,069	89,188
売掛金	1,573,196	1,840,197
商品及び製品	226,442	228,101
仕掛品	17,466	11,943
原材料及び貯蔵品	159,772	202,313
その他	106,486	124,044
貸倒引当金	△32	△33
流動資産合計	4,650,877	3,662,740
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,447,681	2,431,878
土地	1,979,201	3,064,878
その他(純額)	710,966	734,430
有形固定資産合計	5,137,849	6,231,187
無形固定資産	57,144	43,076
投資その他の資産		
敷金及び保証金	429,946	448,540
その他	326,678	291,943
貸倒引当金	△19,283	△19,243
投資その他の資産合計	737,341	721,240
固定資産合計	5,932,335	6,995,504
資産合計	10,583,212	10,658,245

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	659,948	822,046
短期借入金	1,350,000	1,350,000
1年内返済予定の長期借入金	126,687	53,334
未払金	706,317	700,972
未払法人税等	158,414	56,874
契約負債	24,155	29,371
賞与引当金	68,621	38,956
その他	359,444	427,580
流動負債合計	3,453,587	3,479,135
固定負債		
長期借入金	16,647	—
リース債務	53,539	110,495
長期未払金	180,056	175,430
退職給付に係る負債	171,447	181,808
資産除去債務	167,823	184,480
その他	110,550	122,227
固定負債合計	700,064	774,440
負債合計	4,153,651	4,253,576
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,719,897	1,719,897
資本剰余金	1,757,874	1,759,623
利益剰余金	3,203,142	3,154,159
自己株式	△301,845	△266,597
株主資本合計	6,379,068	6,367,084
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,499	4,993
為替換算調整勘定	45,992	32,591
その他の包括利益累計額合計	50,491	37,584
純資産合計	6,429,560	6,404,668
負債純資産合計	10,583,212	10,658,245

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	7,606,502	8,468,857
売上原価	3,612,509	4,132,537
売上総利益	3,993,992	4,336,319
販売費及び一般管理費	3,784,904	4,125,605
営業利益	209,088	210,713
営業外収益		
受取利息	208	297
受取配当金	348	404
為替差益	—	4,209
その他	2,345	2,449
営業外収益合計	2,902	7,360
営業外費用		
支払利息	5,679	6,772
シンジケートローン手数料	1,664	1,845
新株発行費	11,574	—
為替差損	63	—
その他	28	1,848
営業外費用合計	19,010	10,466
経常利益	192,981	207,607
特別利益		
固定資産売却益	—	18,555
保険解約返戻金	66,924	—
特別利益合計	66,924	18,555
特別損失		
固定資産除却損	601	1,159
固定資産売却損	310	—
投資有価証券評価損	7,853	—
特別損失合計	8,765	1,159
税金等調整前四半期純利益	251,139	225,003
法人税、住民税及び事業税	120,284	104,497
過年度法人税等戻入額	△3,863	△19,689
法人税等調整額	33,136	23,911
法人税等合計	149,557	108,720
四半期純利益	101,581	116,282
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△9	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	101,591	116,282

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	101,581	116,282
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,416	494
為替換算調整勘定	15,921	△13,401
その他の包括利益合計	18,338	△12,907
四半期包括利益	119,920	103,375
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	119,929	103,375
非支配株主に係る四半期包括利益	△9	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更に関する注記)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	326,128千円	341,451千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自2023年4月1日至2023年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	商品事業	店舗事業	その他 (本社ビル等の 賃貸) 事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	4,657,053	2,825,107	—	7,482,160	—	7,482,160
その他の収益	—	—	124,341	124,341	—	124,341
(1) 外部顧客への売上高	4,657,053	2,825,107	124,341	7,606,502	—	7,606,502
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,657,053	2,825,107	124,341	7,606,502	—	7,606,502
セグメント利益	1,296,842	33,102	53,695	1,383,640	△1,174,551	209,088

(注) 1 セグメント利益の調整額に含めた各セグメントに配賦できない金額は1,174,551千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自2024年4月1日至2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	商品事業	店舗事業	その他 (本社ビル等の 賃貸) 事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	5,150,049	3,194,744	1,120	8,345,914	—	8,345,914
その他の収益	—	—	122,942	122,942	—	122,942
(1) 外部顧客への売上高	5,150,049	3,194,744	124,063	8,468,857	—	8,468,857
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	5,150,049	3,194,744	124,063	8,468,857	—	8,468,857
セグメント利益	1,253,033	90,997	47,508	1,391,540	△1,180,826	210,713

(注) 1 セグメント利益の調整額に含めた各セグメントに配賦できない金額は1,180,826千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。